

車体業界の市場動向

1. 車体工業会の現状

- 市場状況
- 会員生産台数

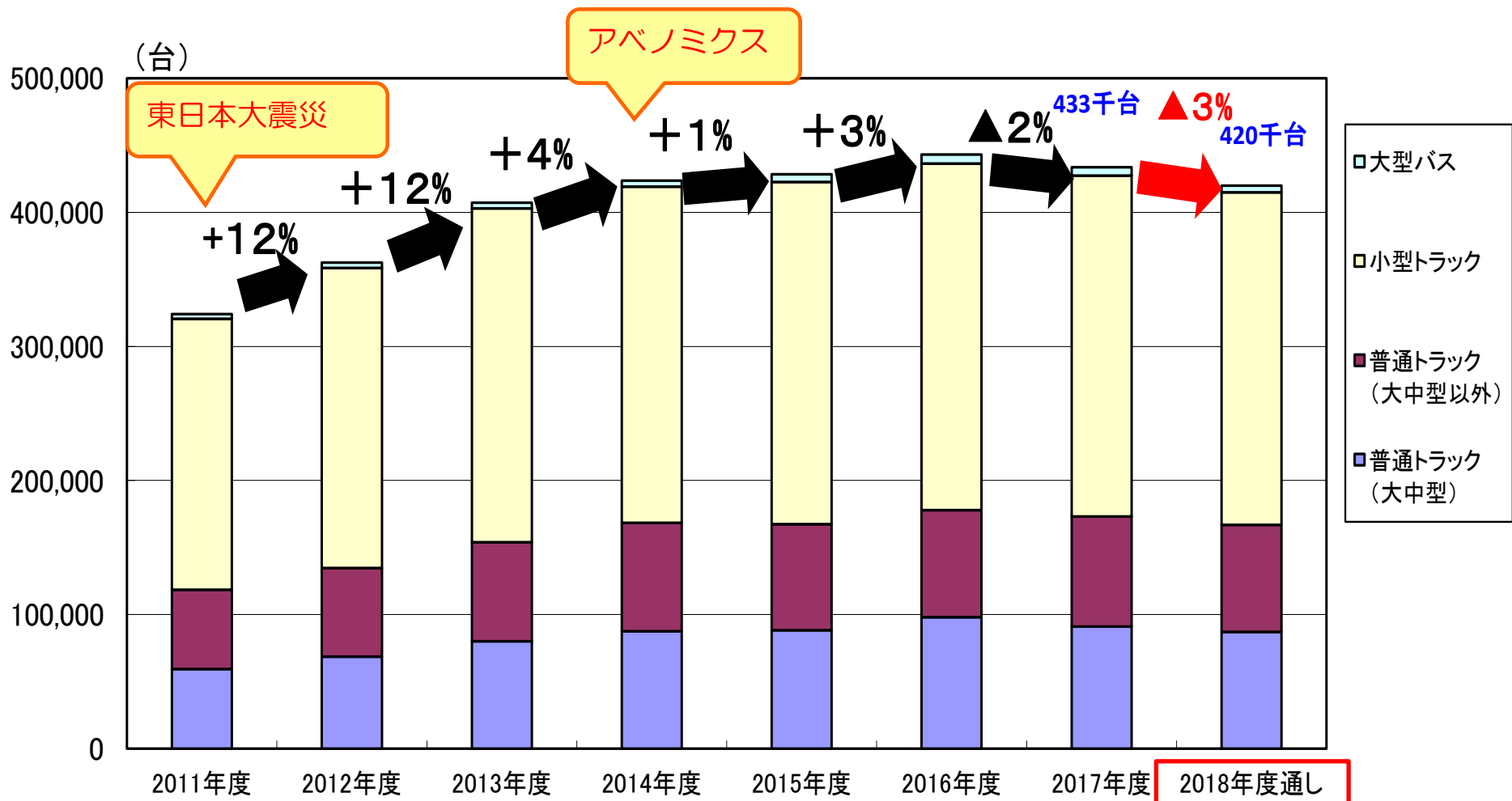
2. 取巻く環境変化

- GDP成長率
- 代替母数の減少続く
- 使用年数の伸び続く
- 貨物輸送量は漸減
- 輸送分担率
- 中長期的には漸減の見込み

1. 車体工業会の現状

商用車全体の販売状況

2017年度実績、2018年度自工会予測(貨物車+大型バス)

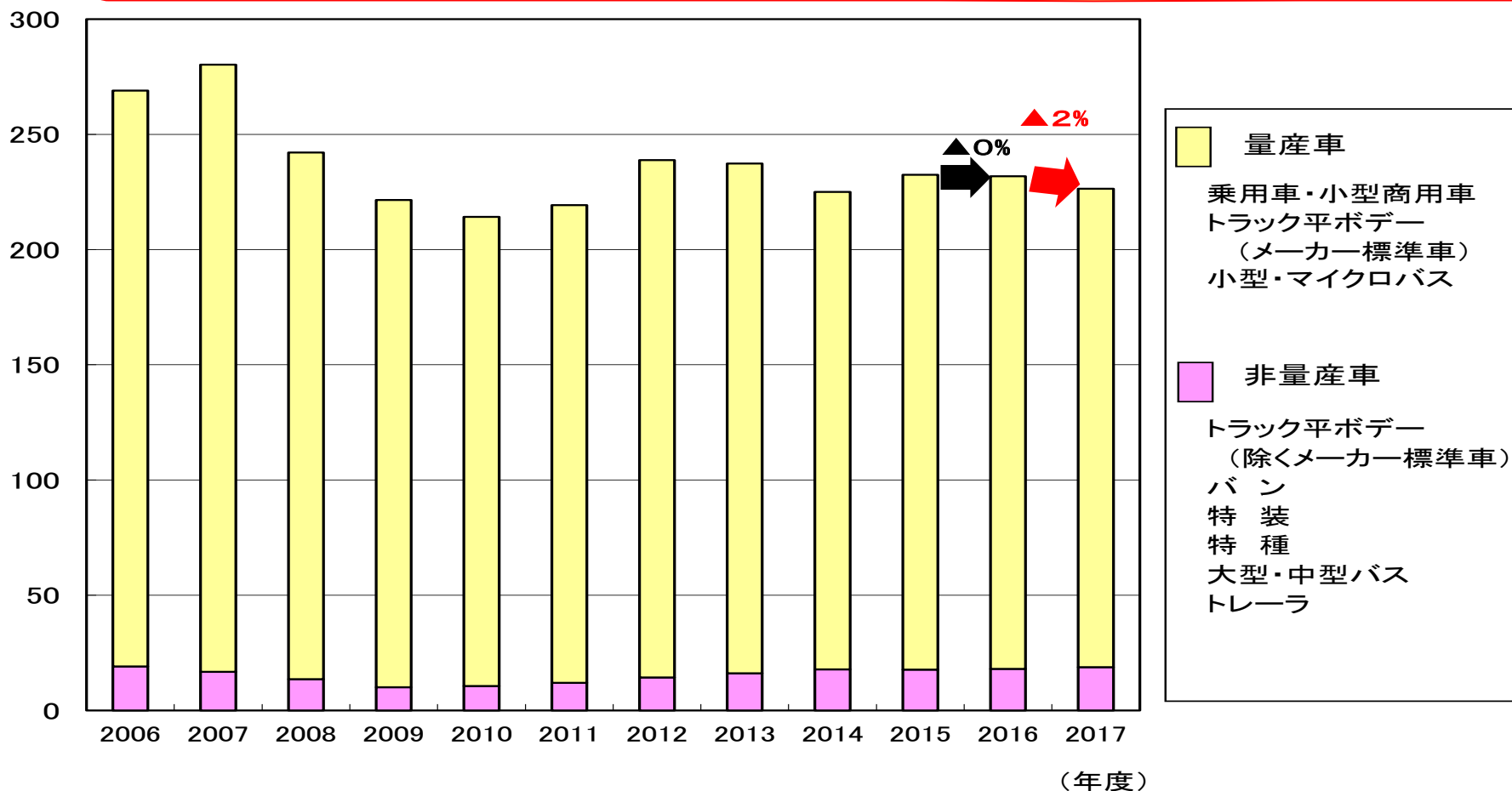


1. 車体工業会の現状

会員生産台数（全体）

- ・ 特種、トラック、バン、トレーラが増加したが、特装車、バス、乗用・小型商用の減少により226万台と前年度比▲2%と減少

(万台)

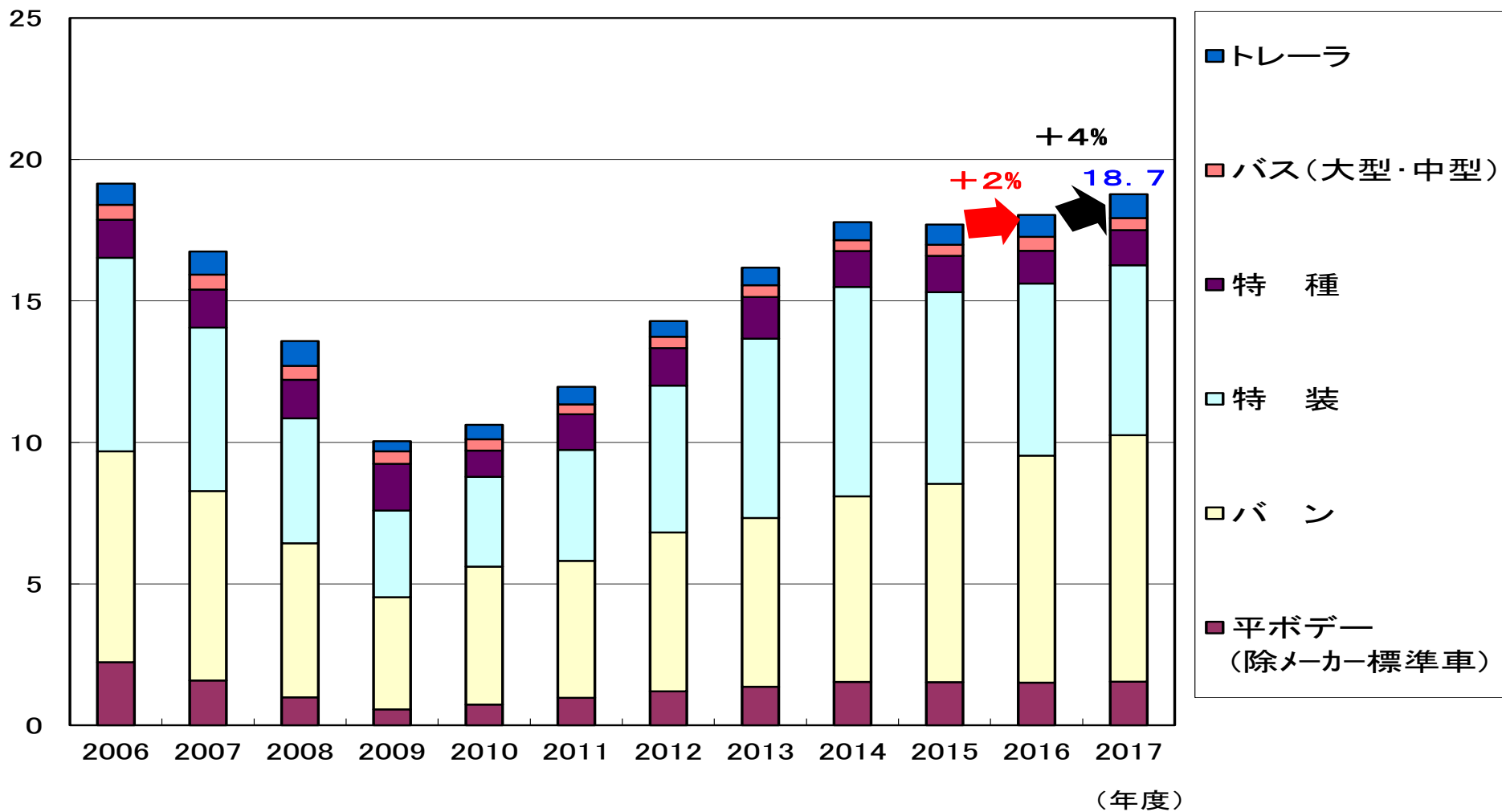


1. 車体工業会の現状

会員生産台数（非量産車）

- 特装、大中型バスが減少したが、特種、トラック、バン、トレーラの増加により18.7万台と前年度比+4%で2年連続の増加

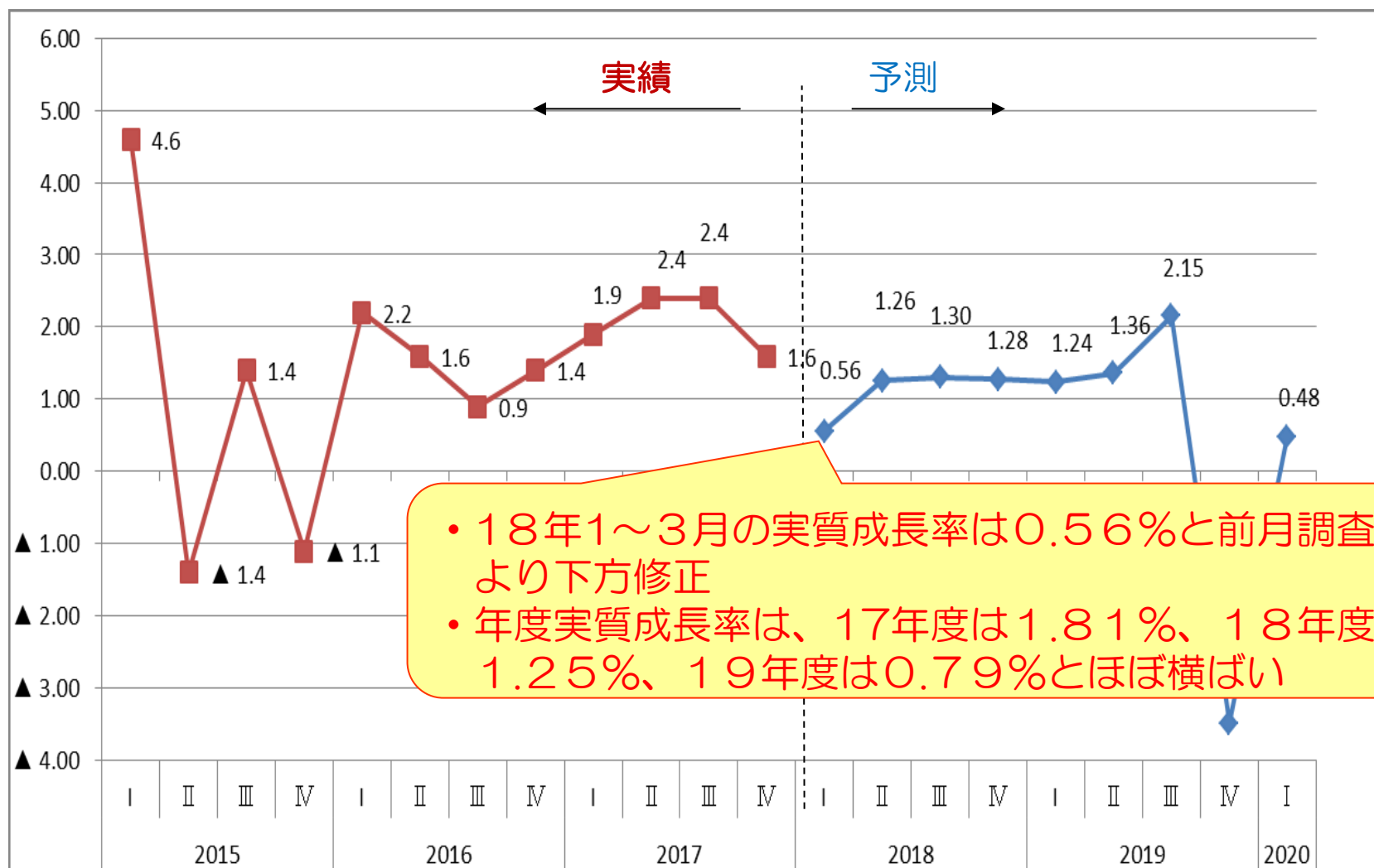
(万台)



2. 取巻く環境変化

GDP成長率

実質GDP成長率(年率)



- 18年1～3月の実質成長率は0.56%と前月調査より下方修正
- 年度実質成長率は、17年度は1.81%、18年度は1.25%、19年度は0.79%とほぼ横ばい

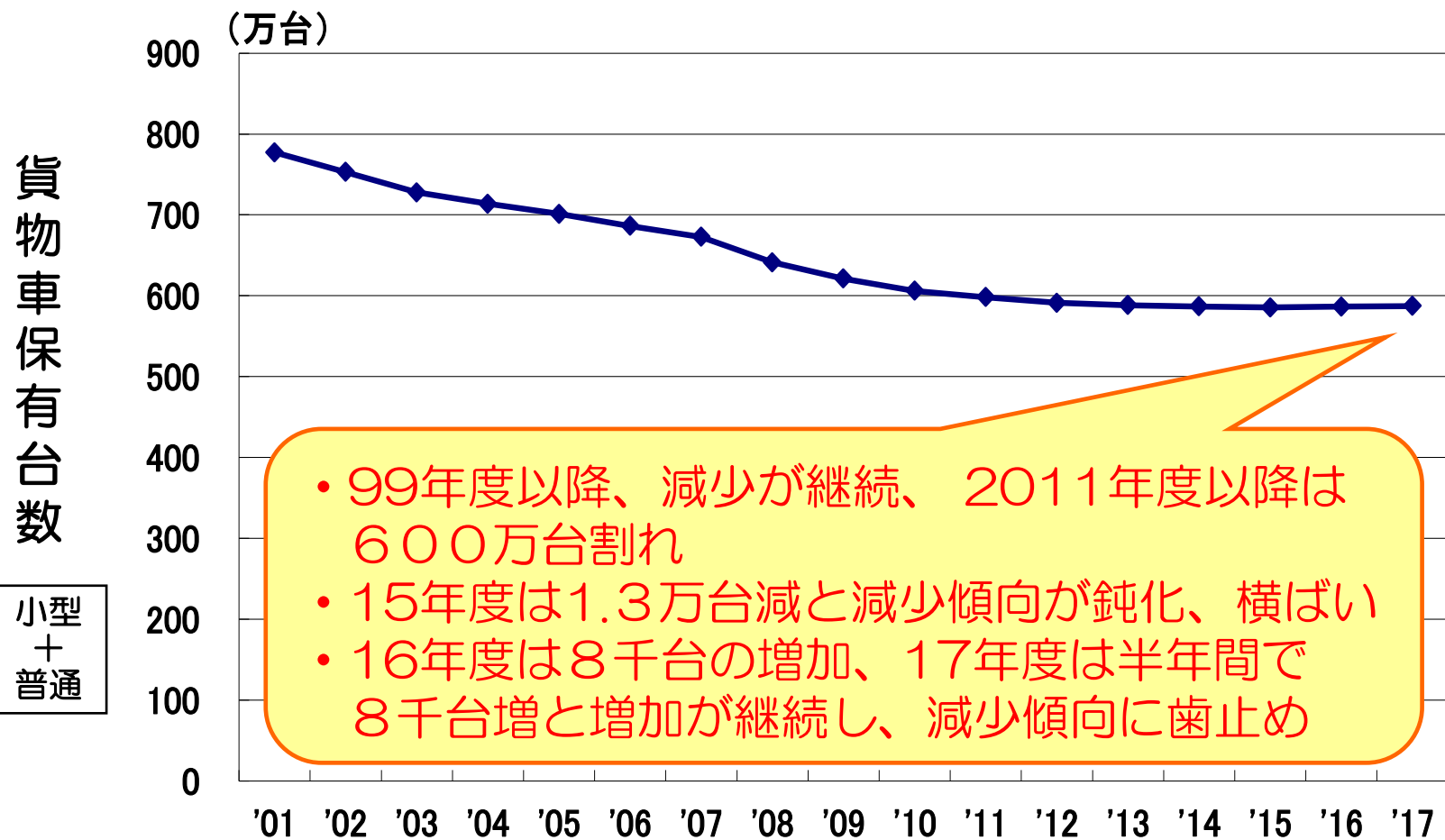
出所：①実績：内閣府（2018年3月公表値）

②ESPフォーキャスト調査（日本経済研究センター）

日本の実質GDP成長率の予測（民間予測機関の平均値2018年4月調査）

2. 取巻く環境変化

代替母数の減少続く

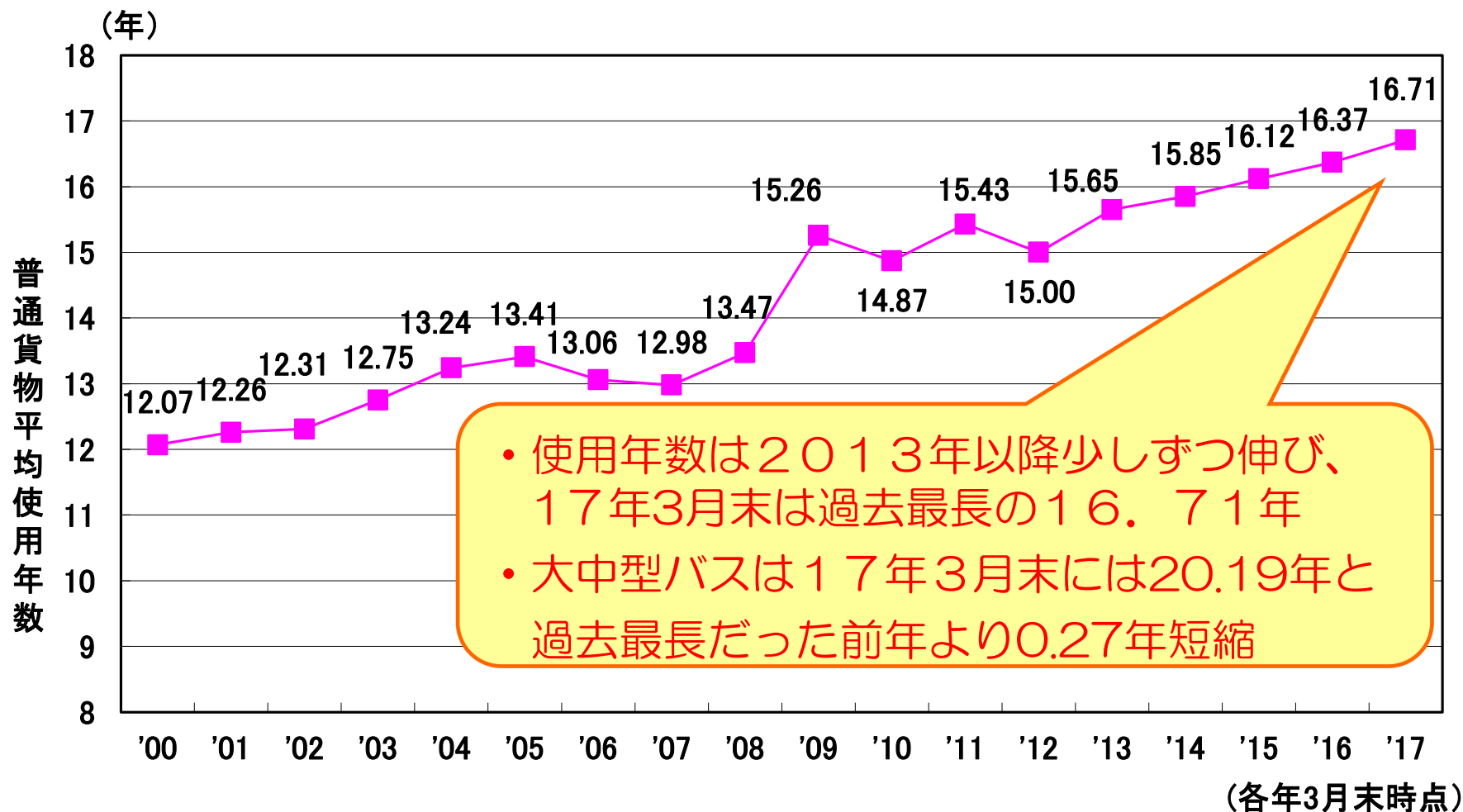


00～16年度は年度末／17年度は17年10月末

出所：国土交通省

2. 取巻く環境変化

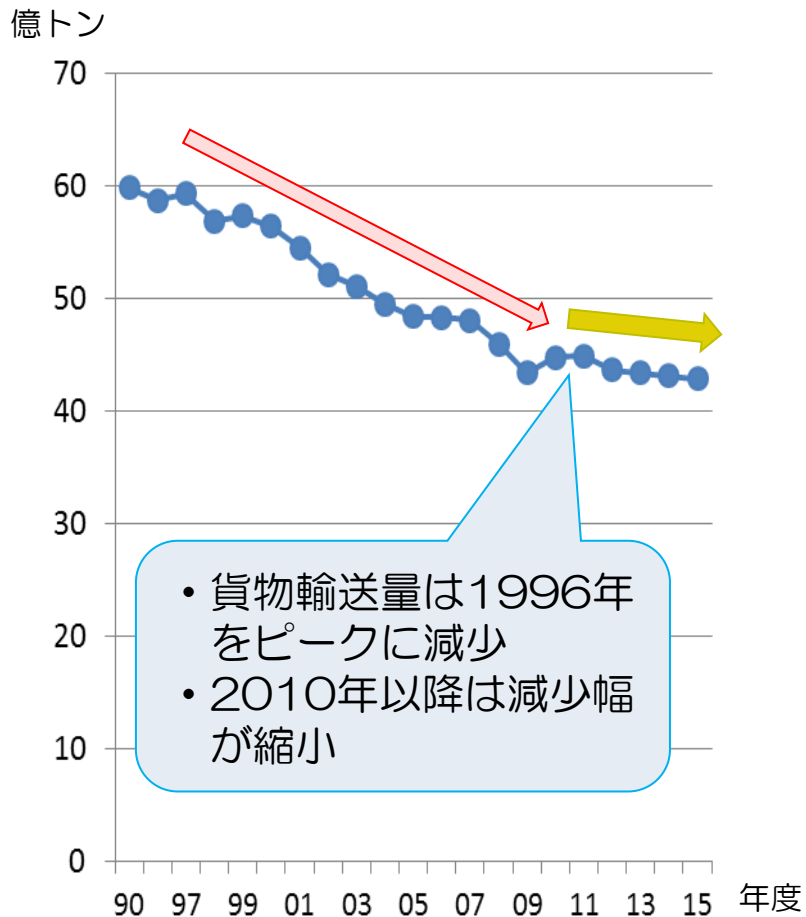
使用年数の伸び続く



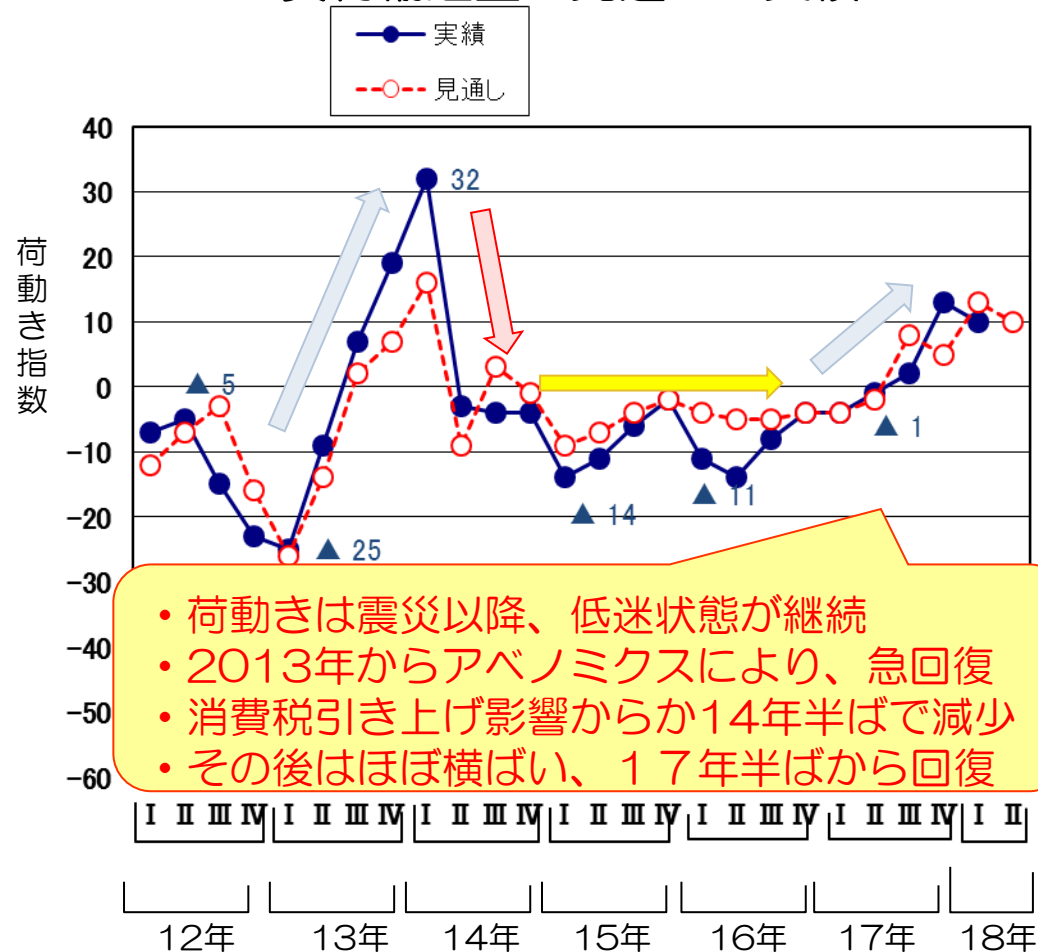
2. 取巻く環境変化

貨物輸送量は漸減

＜自動車貨物輸送量推移＞



＜貨物輸送量の見通しと実績＞

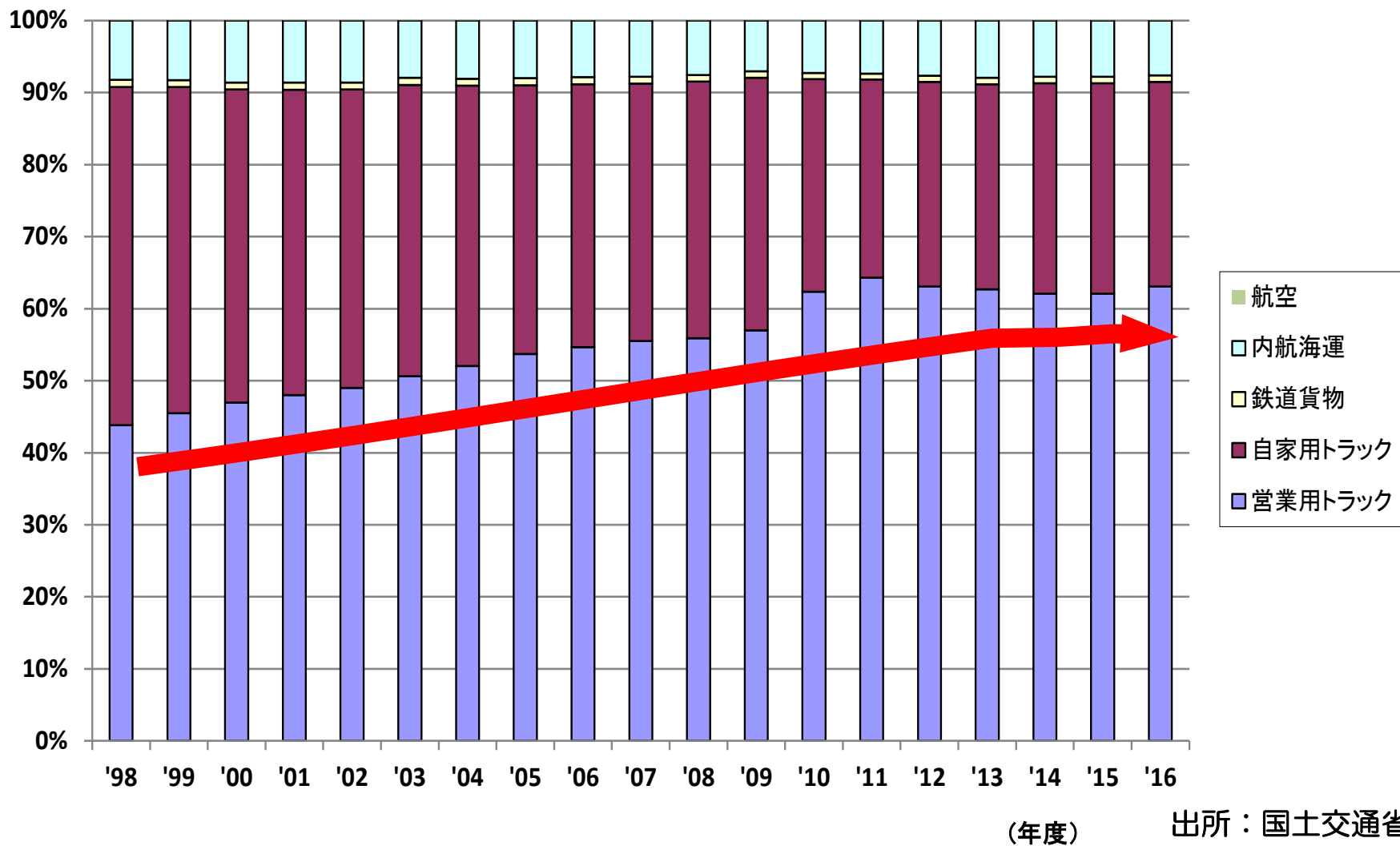


2. 取巻く環境変化

輸送分担率（輸送トン数）

- トラックの分担率は90%超で推移。営業用・個人用比率は約2：1

貨物輸送分担率



2. 取巻く環境変化

中長期的には漸減の見込み

- 時限的特需の終了等により、市場（保有）は580～600万台程度で推移
- 使用期間は15～16年が継続
- 2003年から2007年の5年間の代替は平均で保有の約2.6%

◇上記を前提に生産台数は現在がピークで、中期的には15万台/年程度と見込まれる

